

[039] 語文研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/10231>

出版情報：語文研究. 39/40, 1975-06. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

編集後記

本学会長の春日和男先生は今年二月八日めでたく還暦を迎えられました。会員一同心からお祝い申し上げたいと存じます。

過去三十有余年に及ぶ先生の学究生活は、必ずしも平坦な道ばかりではなかったかもしれません。特に先生が大学を卒業された昭和十五年頃の社会状況では、奈良時代国語の研鑽にひたむきな情熱を燃やす若き学徒の研究生活も、中断させられざるを得ませんでした。その年の十二月忽忽にして入隊、亦来約六年間の軍隊生活を送られたわけですが、しかし、春日先生は、そのような研究生活のスタートにおけるハンデイにもめげることなく、一步一步着実に学問の途を歩んでこられました。卒業論文以来のテーマたる上代語の研究に加えて、御尊父政治博士のあとを継がれた漢文訓読資料の考察も逐次進展し、更には、用言の活用や付属語の派生等に関する理論的な面へも発展して行かれました。それらのお仕事がみごとに結実し、昭和三十七年三月「存在詞に関する研究」で文学博士の学位を得られた事は、皆様御承知の通りです。近くは説話文学関係の御著書も刊行の御予定とうかがっております。

また先生は現在、本学会長という事の他、国語学会理事・編集委員長・西日本国語国文学会代表者・九州方言学会会長・訓点語学会幹事・九州大学評議員等々、いろんな役職を兼ねられて御多忙な毎日ですが、これもつまりは、先生の高邁な職見と円満な人格とが、各方面で厚い信望を集めていられる為と申せましよう。そう言えば春日先生は昭和四十六年秋から半年間彼

のスウェーデンへ出講されましたが、それに関してもついで聞いた噂が聞かれない事、言うまでもありません。琴瑟相和した御夫婦を中心に、御母堂や京都・東京に遊学中の御子息を含めての和やかな御家庭も拝察されようというものです。学究として理想的な御日常とお見受け致しました。

改めて、今後一層の御健康と御発展とをお祈り致す次第です。そのような意味で、本誌は春日先生の還暦記念号とし、受講生の方々を中心に概ね国語学関係の論文を特集しました。できれば二月八日の御誕生日にこの記念号を捧げてお祝い申し上げますたくも存じましたが、結局は万事内輪にという先生の御趣旨に基いて、六月八日（於料亭とり市）先生の還暦祝賀会を九大国文学会の懇親会に兼ねて開催し、そこで本誌を献呈させて頂く事としました。右の事情など御賢察頂ければ幸いです。執筆の諸氏には、御多忙中それぞれ力作をお寄せ下さいました段厚く御礼申し上げます。

（奥村記）